



令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

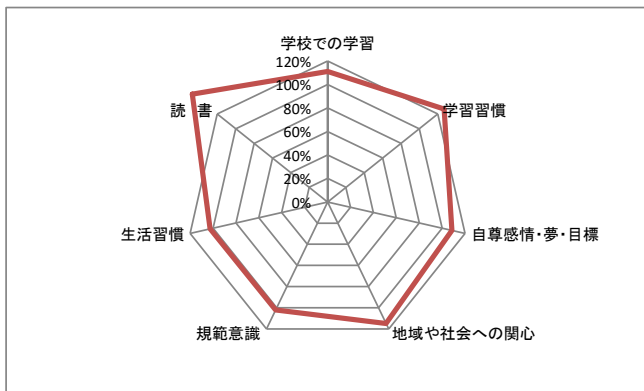
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

| 教科・区分 | 学力調査の分析(傾向や特徴) | 全国平均正答率との比較 |
|-------|--|-------------|
| 国語 | すべての問題で、全国平均正答率を上回っており、無回答率も低い。特に、記述式問題は、自分の主張が明確に伝わるように、構成や展開を考えたり、書き表し方を工夫したりする問題の正答率が高い。目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題では「問われていること」に対応したり、条件に合わせたりする叙述に課題がある。 | 上回っている |
| 算数 | すべての問題で、全国平均正答率を上回っており、無回答率も低い。特に、記述式問題は、必要な情報や特徴などを使って、求め方や答えを適切に記述する問題の正答率が高い。商が1より小さくなる等分除の場面で、除法の式に表し、求めることに課題が見られる。 | 上回っている |

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 「英語の勉強が好き」「話し合う活動に取り組んでいる」「進んで読書をしている」の割合が、全国平均よりかなり高い。
- 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいた。」項目について、「当てはまる」とした割合が全国平均よりかなり高い。
- 「失敗を恐れず挑戦する」項目について、「当てはまらない」「どちらかと言えば当てはまらない」と答えた割合が全国平均より高い。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○授業の中で、自己有用感を高めることができるように、「長いスパンで伸びたか。成長したか。」を軸に、一人一人の伸びや成長をしっかりと見取り、認めたり、褒めたりするように努める。

○「うまくいった」「みんなのためになった」「頼りにされた」という経験を学校生活の様々な場面で経験させる。そのためには、各教科等の授業や特別活動等の中で、教師の事前の指導や支援をしっかりと行い、そのプロセスを大切に自尊感情を高めていく。

○「問い」を核に、自分の考えを深めたり、グループで話し合ったりするなど、主体的な学びが発揮できる授業展開をより一層努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○今後も、家庭学習の充実や生活習慣のあり方などについて、保護者の協力を呼び掛けるなど、啓発に努める。

○情報リテラシーの学習(インターネットを使ったGIGA端末や携帯電話等の正しい使い方や人権を守る学習)についても継続して指導をしていくとともに、保護者へも通信やホームページ等で啓発を行っていく。